

津田昇平教話 第四十六話

令和三年二月十六日 朝の教話

信心は手厚くせよ。うちで信心しておりますと言うのは信心の抜けたはじめじゃ。手厚く信心する者は、夢を見ても、うかつに見るなよ。神は、夢にでも良し悪しを教えてやるぞ。

おはようございます。令和三年二月十六日の朝をお迎えいたしました。昨日は二代金光様のみ教え、「十本の指も神様がさわってくださるから動くのである」というみ教えを頂いて、十本の指はもちろんのことですけれど、生きとし生けるもの、また、その生きとし生けるものを命たらしめる働きとしての、神様からお分け頂いている御霊みたまの働き、そのお働きによって命があり、また指だけではなく、目も、頭も、口も、心臓も、血液も、消化も、皆、命の働きというものは、神様がさわって下さってるから、だから動いているんだということですね。

そのお働きについて、その道理を理解していくということが、この天地の間に生かされて生きている人間、自分を知るということになります

ので、大体自分の命もその天地の働きで貫かれておりますから、この天地の働きを、道理を知るということは、自分を知るということであり、この天地の中でどういうことを心がけてわきまえて生きて行くということとが、天地の道を踏むことになるのかということについて、お話をさしてもらいました。

起きている時はこう、動いているなということとは、まだ意識したら分かりますけれど、寝ている時というのは、寝てますんで意識もありませんね。でも何時間か睡眠を取れば、気がつけば目が覚める。目が覚めたら、生きてるなということとは実感できるんですけれども、寝てる間っ

ていうのはまあ、普通の感覚で言えば意識はない。けれども、寝ている間も呼吸は止まることはありませんし、血液の流れが止まることもありませんし、心臓も肺も内臓も皆働いて下さる。転んで擦すりむいて、血が出ていたところもかさぶたになって、血を止めて下さってね、新しい皮膚を再生して下さっている。食べたものも消化して必要なものは吸収させて下さり、不要なものは排泄はいせに向けて動いて下さる。そしてまた一日の疲れも取って下さっている。こう思うとやっぱり寝てる間もずっと神様はさわって下さって、お働き下さってるんですよね。

神様がもし休まれたら、もうほんとに生きとし生けるもの、皆その瞬間に死んでまうんでしょね。ほんとに神様は休みなく、かんだん 間断なく、す

っとお働きを下さっているんやなあと思っぴ、「いつもありがとういじねいます」って思うんですよね。

よく子ども達の洗濯物とかね、干したり取り込んだり畳んだり、まあ家族もそれなりに多いですんで、洗濯物を一日二回ぐらいは満タンで回さんと、全く回らなくなります。どっかで取り込ましてもらった時に、お日様が出てたり、あるいはもう沈む頃だったりするんですけど、このお天道様の陽気てんとうが、本当にこう世界中に、もう分け隔てなく、光を注いで下さってるっていうのは、ほんとにすごいことやなあと思っぴですね。

お日様があって、風が吹いて、空があって、そして洗濯物も乾くことができるんやなあと思っぴと、ああ、ありがたいなあ、勿体もったいないなあと思っぴ

してもらいます。

この天地そのものも命があり、天地が生きているから生きとし生けるもの皆生かされて、その命の恵み、お働きを享受きやうじゆしているのは、本当に、生きとし生けるもの皆、あまね遍く、平等に授けて下さっている。どこに住んでいようと、善人も悪人も、人種も関係なく、皆分け隔てなく、神様は注いで下さってますね。これってほんとに当たり前のことやないなあと思うんですよ。

お天道様のお照らしを見て、私はいつも、自分自身が参まゐってる氏子うぢこに対して、どんな人に対しても分け隔てなく、このようなお天道様のお照らしのようなことが、そのような心で祈らしてもらおうことができてるか

なあって、いつも思うんですよね。

人を助けようと思って一生懸命御用しててもね、たまにね、ムツとする時ってね、やっぱりありますよね。えらいご無礼やなあと思うとね、私も分け御霊わみたま様がありますんでね、道理からあまりにかなってない、少々のことやったら別にどうとは思わんですけど、ちょっとそれはあまりにもご無礼が過ぎてないかい、って思うとね。

でもそういう時に、お天道様のお照らしを見ると、どんな時にでも、遍く注いで下さってるんやなあと思うと、やっぱり、変わらずに祈らして頂くという気持ちになって、そらまあほんとにね、御用さしてもらおうようになってから二十四年以上経ちますけど、ずっと思ってきたことで

ね。そのお天道様がお照らし下さるからほんとう、命は育まれてお守り頂いているんやなあということをよく思います。

この神様のお働き、起きてる時も寝てる時もそうなんですけど、寝てる時に時々、夢見ることってありますでしょ。起きてる時、神様が働いて下さるんですけれども、寝てる時も働いて下さるんですけれど。目に見えてね、体を守って下さるのもそうなんですけれど、でもそれだけじゃなくって、人間は神様から御霊、みたま たましい魂を授けて頂いてますけれど、一日生きるということは体も疲れるんですけれども、心もたくさん使いましてね、こころ御霊もずいぶん働いて下さいますね。たくさん働いて下さる。

だから生きることができるわけですけど、じゃあこの分け御霊様がいろんなことを教えて下さったりしますね。それが時々夢に出てきます。

夢っていうのは、夢の語源っていうのは「寢^い田^め」っていう言葉から来ております。寢^い田^めっていうのはね、寢^いと田^めという字に田ん玉の田^いです。寢^いは就寢^いというあの字ですね。

寢^いと田^めと書いて「いめ」って読みます。普通読まないですね。寢^いと田^めですから、「寢^いと田^め」というのはもちろん睡眠を意味して、「田^め」は見えるものを意味します。平安時代に夢^{ゆめ}に転じたと言われております。元々は、寢^いと田^め

だったんですけどね、平安時代頃に、夢ゆめという発音に転じたと言われて
ます。

夢っていうとね、寝てる時の夢と、もう一つ、将来の希望を叶かなえるみ
たいなね、「僕には夢があるんや」「って、こういう夢っていうのあります
よね。ああいう意味で使われるようになったのは、近代に入ってから以
降というところですから、元々は、やはり寝ている時に見えるもの、これ
を夢と言っているんですよ。

寝ている時っていうのは普通に考えたら、まあ目を閉じてますんでね、
でも確かに、目は閉じてるのに映像見えますよね。普通私達「見てる」
ていうのは肉眼で見てるじゃないですか。でも肉眼は、間違いなく目を

閉じてるんですよ。なのに見えるんですよね。しかも、その中で本当にリアルで、自分自身で。時々子どもが、夢の中で面白いことがあったんか、ケラケラケラって笑う時あるし、何か面白い夢見てんのかな。かと思うと急に何か泣き出して、「怖い夢見た」って言うこともあるし。あるいは急に「もうっ」って怒ってお布団蹴けっているような感じで、何か怒ってるなどが。夢の中で兄弟げんかしてる時もありますね。

もちろんこちらから見たら、寝てるのになと思いますけど、本人は寝てるっていう意識もないでしょうね。夢の中で起きて、覚醒かくせいして、そしてその世界の中で生きて、嬉うれしかったり楽しかったり、腹が立ったり悲しかったり怖かったり、経験けいけんしてるんですよ。見えてるんですよ。

じゃあ、肉眼は見えてないのはそうとして、何が見えてるんです？何をもって見てるんですか、それ。これが、寢目^{いめ}。つまりこれ、肉眼ではなくって、魂の目なんですよ。ですから夢ってというのは、寢目って言葉からですけど、元々は魂の目という意味になります。寢ている時に自分の神様からお分け頂いている、この分け御霊様が見ている世界、あるいは見せて下さってる世界。

御霊ですから、天から御霊を頂いてますよね。御霊というのは天に属します。地から肉体というものを分けて頂いてますので、肉体は地に属します。だから死ねば、肉体は地に帰りますし、御霊は天に帰ります。当然の道理^{どうり}ですね。

起きてる時は肉眼で見るんですけどね、寝ている時は御霊の働きで、魂の目で、物事を見ていくということになります。そうするとね、面白いもんで、日中見てるもんとは全然違う世界が見えてきたりしますね。いろんなことをね、教えて下さるんですよ、夢の中で。肉眼では、見えなかったり分からなかったり、それは過去のことやら未来のことやら今の現状のことやら、いろんなことを、分かってないこと、気づいてないことも教えてくれたりするんですよ。これが面白いところですよね。

天というのは時間も空間も超えるところがありますので、その働きを頂いてますんでね。時間も空間も関係なく、だから、どの時代にか、上からなんか下からなんか、どこから自分の目があって見てんのかもよく

分かりませんよ。夢の中やったら平気でそんなことが起こって来ます。予測もつかないですよね。平気で死にますしね。死んでも死なないし。面白いもんですね。

夢というのも、神様のお働きがあって見る事ができるわけです。じゃあ夢は、私達生きてる人間に対して、何を示してくれはるかと言いましたらね、今の自分が何を感じてるのか、深いところで、頭で感じるといのでなく、もっと言ったら心で感じるとい部分だけでなく、そのもっと奥、自分の魂は、分け御霊は何を感じてるのか、何を喜んでおられるとか、何を悲しんでおられるとか、何に苦しんでおられるとか、それを教えて下さるんです。

そこから、これから自分がどう生きればいいのか、どのような方向に道をつけていけばいいのか、どういう心で生きていけばいいのか、ということも示唆^{しき}してくれます。教えて下さったり、それは、苦しいことや怖いことを通じて「これは違うんだよ」と、「このまんまじゃこんなことになるよ」っていうことを、シグナルとして教えて下さることもあれば、「今のあなたはこう感じるでしょう。これで本当^{まこと}にいいのかい」って、目が覚めた時にちょっと立ち止まって考えざるを得ないとかね。怖い夢というのは、そういうことがあります。

「今あなたはこんな怖いことがありますよ」「あなたの魂はこんな怖い世界で感じてますよ、分かっていますか」とか。「この先、こんなことが起

こっでもおかしくないぐらい、あなたの魂は感じてますよ、それでいいんですか」って、神様が見せて下さる。で、それを見て、「あ、これは危ないな。ちょっと危険やなあ」っていうことに気づいたら、また神様に向かい方が違ってくる。自分への向かい方が変わってくる。そして神様が、この先の危機を回避できるように、夢の中で、この先の危機を見せて下さったりする。これも神様の働きですね。

魂たまごっていうのは、どこまでも神様から分け頂いてる最高のものなので、その人がどう生きれば助かるのか、立ち行くのか、幸せになるのか、てんち 天地の道理を踏めるのか、どうり 神様の道を歩めるのかっていうことを全部こ

存じです。何もかもご存じです。答えは、自分の中の魂の声を聞けば分かるんです。神様から分け頂いているんですから、そら最高のものですよ。おかしなものは頂いてないんです。でも、その声をなかなか聞くことができないから、お取次を頂いていくということが必要になるし、時に夢の中で自分に聞かせて下さったり、体験させて下さったりする。こういうことがあったら自分の魂が喜ぶということやら、こういうことで苦しんできて、辛くって、今自分がいるんやとか。こういうことを自分の魂が怖がっているんやとか。逆に、こういうふうにして生きていけば、道がつくんだということやら。そういうことも、いろんな形で教えて下さいます。

これ皆、神様の働きで、自分の魂が、自分を助けるために見せて下さってるんです。まあ言わばね、ここからの予報を見せて下さったりするんですよね。だからそれを見て、今どう生きるのかってことを考えんとあきませんよね。

雨が降るのが分かってたら、「傘持かさってったほうがいいねえ」というのと一緒にですよ。ここから先、このままやったら苦しいよ、怖いよ、ってなってきたら、そしたら、今から外出ようかという時も考えますでしょ。着る物だって違つかもしれないし、今日は途中で暑くなるってのが分かったら、ちょっと着る物も考えるかもしれません。お昼以降からすごく冷えるってことがもし分かったら、またそれによって、持っていく物も少

し違つかもしれません。

夢の中で、自分の命がどういふふうにして展開していくのか、時空を
超えるから分かってるんです、天はね。分け御霊様は。

神様のこの天が、自分の中の天の部分に教えて下さるんです。それを
普段、意識してる時、日中であれば、頭が、理性が働いてますから、そ
の声をうまくキャッチできないようになってます。だから夢の中で、理
性が緩んで、意識が緩んでる時に、魂が活発になって教えて下さる。そ
うしないと自分はなかなかキャッチしようとしなないんでしょね。でき
ないんです。

でも例えば、心が苦しかったりしんどかったりして、神様に向かって

自分の意識が深くなって生きている時ってというのは、あんまり今度は夢を見ないですね。それは日中にしてるからなんです。でないとかクタクタになりますんでね。面白いもんでね。だから今自分がどんな状況なのかよく分からないとか、自分が見えないとか、見つめることができないっていう人は、結構夢を見る人多いんです。見てないと思っててもよう見てるんです、本当はね。だから「書いたらいいよ」ってよう言います。

夢の中にも神様はいろんなことを教えて下さるんです。その人が、今どんな状況なんか。でも日中では、自分のことがよく分かりません。自分のことが見えません。理性が強かったり、頭の力であれこれ考えたりが強かったりね。がんじがらめにしているとなかなか、自分を見つめる

という力が弱いですから、育ってないですから。だから夢の中で、理性が緩んでる時に、自分に教えて下さるんですね。

だから夢ってというのは、どうすれば自分が助かるのかっていうことをいつも見せて下さいます。これが魂の働きなんです。夢は寝目いめから来る。魂の目です。つまりそれは、神様の目なんです。神様が見せて下さってるんです、自分に対して。

日中やったら、なかなか見ようとしなない。見れないから、寝てる時に見せて下さってるんです。で、「見えるものから考えなさいよ」と、時には注意喚起ちゅういして下さるんです。嬉うれしかったことやら悲しかったことやら、これから起こって来ることやら、今のこの現状やら、これまでのことが

分かったり、これからもこうやって苦しくなるよ、とかね。これ皆、神様が見せて下さってるんです。天が見せて下さっている。それを、寝てる時に見せてもらう。

パッと目が開いた瞬間、その瞬間にもう理性、頭が働き始めますからね。そうすると、最初は覚えててもしばらくしたら、放っておいたら忘れますよね。これを忘れないように、枕元にノートとか置いて、パッと目が覚めた瞬間に、すぐに書くこうとし始める。すぐに消えますからね、単語だけでもばばばって書いてたらいいですよ。それだけでも違います。取っ掛かり^かがあったらね。でも、それ書いてなかったらね、まあすぐ消えますよ。だんだん書くことを覚えていくとね、忘れなくなるん

です。これ絶対そうなってるんですよ、面白いもんでね。自分の意識が自分の内なる声を神様のメッセージとして受け取りたいというアンテナを張ったら、段々出来るようになるんです。これみんな出来るようになります。

もしやってみようと思ったたらやってみて下さい。自分自身を見つめる目が深くなってきますんで。これすごく大事なことです。これ神様のメッセージを、分け御霊様を通じて教えて下さいますんでね。時にそれは体にも現れてきますけど。

いんじうらにせ
近藤藤守さんへの教祖様のご理解に、

信心は手厚くせよ。うちで信心しておりますと言うのは信心の
抜けたはじめじゃ。手厚く信心する者は、夢を見ても、うかつ
に見るなよ。神は、夢にでも良し悪しを教えてやるぞ。

一理 I 近藤藤守 五八一

というみ教えがありますね。ご存じですかね。手厚く信心せよ、という
ふうなところもありますけれど、そこはちょっと、今日は少し置いてお
いて、「手厚く信心する人は、夢でもうかつに見るなよ」と仰いますね。
「うかつ」「って、どついう意味でしょう。ぼんやりしてるよね、注意が

散漫で、注意が足りず「ぼんやりして疎い」という、そういうことですね。つまりこう、そこに意識が行ってないんです。夢を見てもそれを、「ああ、夢見たな」っていうくらい、あるいはもう、それすら覚えてないような。

つまり、夢の中でも神様は教えて下さる、良し悪しを。あの、悪い夢見た、もうなんか怖い夢見た、これは悪いことではないんです。これ、実はいいことって一杯あります。って言うよりむしろ、いいことしかないんです、夢ってというのは。全部いいことなんです。

「いやもう、なんか死ぬ夢見たんです」って、これ悪い夢でもないですよ、それ自体は。嫌な夢だったでしょうけど。嫌な夢が悪い夢でもない

んです。夢は皆いいもんです、全部。百パーセント、千パーセント。ただ夢の中で泣くかもしれないし、死ぬかもしれないし、殺すかもしれない。壊すかもしれないし、嫌なことがあるかもしれないませんよ。夢の中でいじめられたとかね。夢の中で閉じ込められたとかね。ちょっとなんか、怖い夢のことばかりいう話、してますけれども。

機嫌が良い時はそれでいいんですけども、しんどい時にこそ、自分自身が気づいてない時こそ、夢はまた力を発揮することも多いですから。嫌な夢を見たなって言いますが、でもこれ、悪い夢じゃないんです。むしろすごく大事なんです。「自分自身がそれを通じて、自分の魂は今どんな状態かをよく分かって下さいよ」って、神様が教えて下さってるん

です。それを通じて、神様が何を自分に教えて下さってるんか、ちゅういかんき注意喚起して下さってるんか、何を心がけないといけないのか、何を見ていかないけないのか、どういう信心したらいいのか、どう生きてたらいいのか、「それを気づいてよ」って教えて下さってるってことなんです。だから「神は、夢の中でも良し悪しを教えてやるぞ」「教えてやるって言うてるんです。

これ、お取次という形でなければ、唯一とは言いませんよ、信心させてもらってるというんなこと教えて下さいますよ。はやうした流行歌。二代金光様でもね、流行歌っていつても結構なことを教えて下さる。いつもアンテナを張ってるとね、神様、神様って意識していると、それこそ本当に何を

見ても、森羅万象しんらばんざうごとごとくが神様のお声として、お姿として、見えるし感じるし、そこから自分に対するメッセージを感じ取ることが、これできるんです。これまた信心の大事なところです。でもそれとは別に、寝ている時にでも神様は教えてやる、って。夢の中で教えてやると、こうやって言っいって下さくだささつつととるるんんでですす。

だから、信心を手厚くする者は…信心って何ですか。はい、信心何ですか？しんはわが心、じんは神である。わが心が神に向かうをもって、信心という。心を神様に向けて、神様と共に生きる、あいよかけよで生きていく、いわが信心ですね。それを手厚くする者、手厚く信心する。つまり、いつも神様神様と言いながら、神様に心を向ける。また、神様の

御心みこころを意識しながら、心にかけてながら生きている、生きて行く。これが信心なわけですね。それを手厚くする人は、夢の中でも良し悪しを神様は教えてあげるから、うかつに見てはいけませんよ、とこう言っておさつとるんです。「夢を見てもうかつに見るな。神は、夢にでも良し悪しを教えてやるぞ」って仰ってるんです。

良いも悪いも教えて下さるんです。良いことを教えて下さるのがいい夢ですか？じゃあ、良し悪しの悪しを教えて下さるのは悪いことです。か？本当ですか？むしろ、違つてしょ。良し悪しを教えてくれはんねんからね、生きていく上においたら、悪しを教えてくれる方がよっぽどこれ、いい夢でしょ。

例えば、「あなたこれから事故起こしますよ」なんて、もし先に言ってもらったら、こんなええことないですよ。この後、車運転して事故するから、だから運転しない方がいいよって言われたら、そっちの方がいい夢でしょう。だって教えて下さるんですもんね。

手厚く信心する人には、夢の中でも良し悪しを教えてやる。「夢にでも」ですから、夢にしかとは言いません。さっきも言いました、お取次でお言葉を頂くのは、もちろんこのこと一番ですけれども、言葉で、日本語で、日本人ならね、日本語で、口がありますし、口耳があるもんですから、私も。だから、取次の業を託して頂いて、私もさせて頂く。皆さんも口耳があるから、だから喋れるし聞けるでしょ。

でも、森羅万象ごとごとく、直接の言語ではないけれども、森羅万象ごとごとくが、神様の声として、姿として、教えて下さる。言語化されない言葉で訴えて教えて下さる。こつこつことがある。

さらには寝ている時にも、自分の魂が、自分の魂を通じて、今の現状やら、教えて下さる。これ全部いいことなんですよ。だから「先生悪い夢見ました」って、たまにありますよ。もちろんそつで、「もう嫌な夢で、寝てる時に泣いてしまって、目が覚めても泣いてました」って、あります。聞きますよ、よくな。でもね、これ悪い夢じゃないんです。これ、神様が見せて下さってるんです。すこくありがたいんです。

その中で、「じゃ、お前のこつやで。お前こないなってるんやで。よう

それ分かった上で、ようわきまえた上で、よう押さえた上で信心せんといかんで「って。」同じ失敗したらあかんで。またこないなるで。どないしてったらいいんやった？お取次頂いてきたやろ。み教え頂いてきたやろ。今年のみ教え何や。これまでどんなみ教え頂いてきたん？これまでどんな信心してきたん。どうやっておかげ頂いてきたん？忘れてへんか？ちょっと忘れてるんちゃうか。でないとまた、つまらんこと起こるで。まあ、そないならんようにな。油断したら、ほら、夢の中でほら、前みたいなこと起こってくるで。嫌やろ？神様も嫌やわ、そんなん。だからこれまで教えて頂いてきたこと、ちゃんと復習してるか？え、『もう出来たから卒業した』…いやいやそんなことあらへんやないか。そんな、

めぐり深いんやから、十年二十年かかって当たり前やで。教えてきたこと忘れてたらあかんで。はい、何やった？み教え思い出してごらん。心にかけて生きてごらん。今のこの現状の中で、これまで培つちかった信心を實踐してごらん。どんなこと教えてもらってきた？どんなこと聞かしてもらってきた？どんなこと気づかしてもらって、それちゃんと覚えてるか？そんな時だけ『分かった、分かった』って、分かった気になって、あと放ったらかしてへんか。ちゃんと復習してるか。ちゃんとほんまに勉強してるか？信心の。ちゃあんと勉強したら、いいように道がつくし、そやなかったらこんなしんどいこと起こってしまうんやで。油断したらあかんで」と、教えて下さってるんです、私達にね。

だから、悪いことじゃないんですよ。むしろ、御夢みゆめを頂けるのはありがたいんです。「御神夢ごしんむ」って言ったり、「御夢みゆめ」って言ったりします。実際には、ちょっと若干意味は違うんですけども。この御夢を頂いたりする中で、自分自身の立ち位置をもう一度確認させて頂いたり、そこからまた、自分がここからどういうふうにして生きていけばいいのかということを、お示し下さったりします。

起きてたらそれがなかなかね、うまく自分が、意識がキャッチできないんですよ。天の声がパッと聞こえたらいいけれど、なかなかそれができない。森羅万象ごとごとく神様の声として、ちゃんと「あ、こうしたらええんや。教えてくれはった」って気付けたらいいけれど、なかなかそ

れができない。じゃあ、どうするんか。夢の中で、教えて下さるんです。

でもそれだって、教えて下さっても目が覚めたらすぐに忘れてしまうでしょ。そんなことやから、神様の声が届かんのんです。忘れたらあかんのです。あの手この手で神様教えて下さっても、それも大事にできんのでどうやって信心するんですか。お取次の中で教えて頂いても忘れ、森羅万象ことごとくの中で、声で教えて下さってもうまく受け取れず、夢の中にでも良し悪しを教えて下さっても、目が覚めたら忘れる。ちゃんと信心しなさいよ…って思いますよね。そういうことなんです。

夢の中にでも、良し悪しを教えて下さるんです。だから教えて下さったことをもう次々次々ね、落として行くのはほんま、止めんとあきませ

んよ。伝えるんだって、神様だって働いて下さってエネルギー使っとん
ですからねえ。

参って来て、手え合わせて拝んで、自分の願えばっかり届けてもらう
って、こんな信心でもなんでもないですよ。これ、信心ない人でもで
きますよ、こんなん。教えて頂いてきたことを、教えて頂いたことを、し
っかりと自分の胸に抱いて、手本にして、それを心がけて自分自身を改
まっていくな、改めていくな、育てていくな、育てていくな。それが信心でしょ。

どんなに熱心に毎日塾に通っても、教えてもらって「ああ」って言う
ても、塾出た途端に全部忘れてたんやったら、もう通っている意味ない
ですよ。塾の先生が気の毒ですよ、一生懸命教えてくれはったのにね。

月謝取ってんのならまだしも、月謝も取らずに、ただで教えて下さったりしたら、どんだけのことですか。

そういう勿体ないことをしてるようじゃあかんのんです。だから神様もったいは、お取次の中でも教えて下さる。森羅万象ことごとく、その中でも教えて下さる。だって神様の体の中で、分けて通って生きてるんでしょ？自分の命の中も神様いらっしやって、自分の外にもいらっしやって、自分は神様の働きに貫かれてるんでしょ。だからいろんなことで教えて下さる。体であったり、考えであったり、出来事だったり。内からも外からもメッセージ。寝てる間でもメッセージ、お結界でもメッセージ。メッセージばかり送ってのに、どんだけちゃんとキャッチして大事にし

てくれてるんですか。

神様からの一方通行ばかりやないですか。「いや、神様に一生懸命向かってるんですけど神様全然返してくれない」…アホかっちゅうねん。どこ見とんですか。神様から一方的ですよ。全然受け取ってないんですよ。神様はお気の毒です。

教えて頂いているみ教えというものを、本当に大事にせんとあきませんよ。大事にしたら本当に船にも積めないようなおかげを下さるんですから。誰でもない、自分のためにやって下さってるんです。人間のためになんてそんな大きく広げる必要ない。私という人間のために、私と

という一人の氏子のためだけに、これだけの手間暇てまひまをかけて神様は教えて下さってるのに、それを粗末にしてしまう自分の罪深さ、ええ加減さ。そんなん嘆いてもしょうがないから、嘆く暇があったら改めなさい。改まりなさい。そのために神様は教えて下さってる。

夢の中でも、流行歌はやりうたの中でも、どんな中でも、神様に心に向けて、信心を手厚くする。心を神様に手厚くする。意識する。そしたら神様はちゃんと返して下さってる。

返して下さってるのをどれだけちゃんとしっかりと聞いてるんか。肉眼で、心眼しんがんで、見えて、聞いて、受け止めてるんか。そこが大事なんです。それを大事にしながら、大事にしながら、そして信心してって下

さい。

信心は手厚くせよ。うちで信心しておりますと言うのは信心の抜けたはじめじゃ。手厚く信心する者は、夢を見ても、うかつに見るなよ。神は、夢にでも良し悪しを教えてやるぞ。

一理 I 近藤藤守 五八一

夢だけの話やないです。お取次の話、森羅万象しんろばんしやうごとく神様の声、御姿、御心みこころ。夢の中にも教えて下さってますから。いっつも神様からメッセージですよ。二十四時間ずーっと、自分にお話しして下さってるん

です。それを聞かないのは私達でしよう。

そういう相済あひすまんことにならんように、神様の声、ちゃんと聞いてあげて下さい。神様がかわいいそうですよ。しっかり受け止めてあげて下さい。それを受け止めたら、みんな幸せになれます。だって神様の声は、あなたのことがわいいよ、ということしかないですよ。かわいいという心、それだけですよ。それが神でしょ。それがそのまんま、神様でしょ。それを受け止めていないというのはね、失礼ですよ。

「ああ分かった、分かった」って言うて、分かってないでしょ。心にもない義理チョコでも思ってるのんですか。心を込めて神様は教えて下さって、おかげも授けて下さってるんですから、ちゃんと受け止めてい

くんです。「受け止める」いうのは、忘れんといふんです。

「はいはい」「言うて、「結構な話、良い話聞かせてもらいました。ああよかったです」言うて持って帰って、あと好き勝手にして、なんじゃそれと思いますよね。

「ええ話でした」…そんなん別に、あんたに言われたくもないですよ。いい話してるに決まっています、神様の話なんですから。そんなん言われでも嬉しくもなんつともないですね。そんなこと言う暇があんのやったら、教えたことをしっかりと身に体して信心のお稽古をしておかげを頂きなさいよ、って思うんですよ。

おかげ頂いてありがたいなあってなったらはじめで、「いい話やったね」

って、「いい話頂きました」って。そうですよ。いつも思います。あんに褒められるような立場違う、思っほて。参って来るあなた達より、みんなより信心できてへんかったら先生なんて辞めてるわ、と思います。

当たり前のことです、こんなんね。教えて頂いたことをしっかりと頂いて、それで、我が身におかげを頂いたらはじめて話した意味があるんです。でなかったら、私が話したことなんて捨ててんのと一緒でしょ。

神様がメッセージして下さいても、それを聞いて、改まっておかげを頂いてくれんかったら、神様無駄でしょ、それ。一体全体どれだけ無駄をしてるのか。人間が。あなた達が。本当に、ええ加減にせんとあかんなと思いますよ。教えて下さるものを大事にして、神様の声を大事にして、

神様の愛情をしっかりと受け止めて、信心させてもらわんとあきませんね。
どうぞ今日も一日、神様からご慈愛ごじあい一杯でおかげを授けて頂いての今日一日、今の今ですよ、この瞬間もですよ。聞いてても、呼吸してても、料理してても、学校の準備してても、運転してても、ずっと神様が働いて下さっている。愛情を注いで下さっている。その神様のご慈愛に応えて下さるよ。

信心して、しっかりおかげを受けて下さいよ。おかげを受けるような信心して下さいよ。それが、おかげを受け止めるということが、神様の愛情を受け止めるということですよ。

捨てんといして下さい。捨てたら神様だって傷つきますよ。そないなら

んように、そんなことしたい人間、いないはずなんですからね。したくてしてるわけじゃない。もうそんな言い訳はいいです。神様の愛情をしっかりと受け止めて下さい。

みんな、生きとし生けるもの、皆そうです。そのために、生まれて生きてるんですから。死ぬまでって、いつ死ぬか分からんのに、明日死ぬかもしれないのに、今日死ぬかもしれないのに。いつやるんですか、それ。今月今日ただ今って、教祖様仰ってるでしょ。今するんですよ、それ。でなかったら、どうせ死ぬまでしないですよ、人間は。じふにいつに今月今日っていうのは攻めとるんです。攻めの信心ですよ、これは。いつするんや、今でしょ、ってことでしょう。今月今日ただ今、今の今、そういう意味ですよ。ものす

ごいこれは攻めてるんです。先じゃないんです、今なんです。今しかないんです。だから今、今しなさいってことを仰ってるんです。今、ここぞ、おかげの頂き時って思って信心しなさいって、それが「今月今日でたのめい」っていう。超攻撃的ですよ。

そうやって下さらんと神様も立ち行かん、神も助からんと仰るんですからね。「天地てんち金乃神かねのかみを助けてくれ」っていう、その神様の苦しい思い、

苦しめてるのは人間ですよ。こんなこと言っちゃあれですけどね。でも実際そうですよ。だからまた、人間である、金光大神っていう一人のね、まあ言ったらしがない人間に頼らんといかんことになって、人材不足ですよ、神様も。お気の毒ですよ。私みたいなんでも頼らんといかんねん

から。まあ使うて頂けるところは使うて頂いて、少しでも神様に助かって頂けるためにね、私もこうして話をさして頂く。話を聞いて「ああ、なるほど」と思うたら、忘れてたらあきません。もうそれも、「なるほど分かりました、ええ話聞かしてもらいました」。ほんで何も変わってなかったら、何なんよそれって思いますよね。こっちも命振り絞って話してるんです。返してって言いたくなります。ま、それはいいとして。

神様が一生懸命自分のためにお働き下さって、愛情注いで下さってるんですから、しっかりそれを頂いて、受け止めて生きて下さい。はい、それが神様からの願いですよ。ね。はい、今日も一日信心のお稽古けいこをさせ

て頂きまして。ようお参りでした。

了



津田昇平教話 第四十六話

令和三年二月十六日 朝の教話

令和三年四月十九日 初版発行

令和三年十一月三十日 第二版発行

発行所 金光教尼崎教会

〒六六〇一〇八九二

兵庫県尼崎市東難波町三一七―五
